

農業イノベーションフォーラム

ジャガイモ種子トリートメントのイノベーション

開催
日時

2019年2月6日(水)

14:00 ~ *参加料無料

会場：幕別町百年記念ホール

日本では種イモの処理が十分に行われていないケースが多く、これが収量停滞の原因の一つとなっています。収量をアップするためには、育芽方式、種子消毒、カルシウム施肥、貯蔵管理における改善が必要です。

本フォーラムでは、様々な観点から種イモの品質改善のための提案を行います。

1. Cor Joppe 氏講演

「種イモ育芽装置によるプレスプラウトトリートメント」

育芽（プレスプラウトトリートメント）は、種イモの初期生育を促進するための重要な工程です。適切な育芽を行うことにより、しっかりとした強い芽が均一に育ち、初期生育が早くなります。Cor Joppe 氏は、自身の生産者としての経験から、種イモの品質の均一化と収量の最大化を実現するための画期的な育芽システムを考案しました。このシステムでは、コンテナの代わりに吊り下げ袋を使用することにより、すべてのイモにムラなく育芽処理を行うことができます。また、専用ラックの使用により、大量のイモの育芽を効率的に行うことが可能です。本システムの特徴と運用方法について、開発者である同氏にご紹介いただきます。

講演者プロフィール



Cor Joppe (コール・ヨッペ) 氏

Joppe Presprouting Technique 代表。
1960年、オランダ南西部のFlakkee島出身。ジャガイモ生産者としての経験を活かし、1989年に効率的かつ効果的に育芽を行うためのシステムを開発。現在ではオランダをはじめ、スイス、ドイツ、ロシアなど、世界のジャガイモ生産国で利用が拡大している。



2. ミニフェックシステム（噴霧式種子消毒装置）

病害感染を防ぐためには、十分な種子消毒を行う必要があります。噴霧式では常に新鮮な薬剤が供給されるため、消毒効果の低下がなく、また、噴霧後の乾燥が早いため、病害感染拡大を防ぐことができます。浸漬方式と比較して、経済性にも優れています。



3. 「空っ風君」（急速乾燥装置）

シートとファンの組み合わせで作物間隙に強制的に空気を通す乾燥システムです。作物の表面を短時間で乾燥させて、腐敗の原因となるバクテリアの移動と活動を抑制するため、黒あし病軽減に効果があります。種子消毒後の即時乾燥にもご利用いただけます。

* 「空っ風君」は TOMTEN Trading 有限会社の登録商標です。



4. カルシウム肥料

カルシウム施肥は種子の活性を強化し、初期生育を促進します。ジャガイモにおいてはカルシウムの供給タイミングが重要で、塊茎肥大中期・後期にいかにして継続的に十分な量のカルシウム肥料を提供するかが最も大きな課題であると考えられています。施肥後の効果が長く持続する緩効性硝酸カルシウム肥料についてご紹介します。

5. 作物間隙強制換気貯蔵システム

貯蔵病害を防止し、効果的に乾燥を行うためには、作物間隙に強制的に空気を通す換気方法による貯蔵システムが理想的です。オランダ Mooij 社のアスパレーション／プレッシャーシステムは、この換気方式により病気の蔓延と乾燥ムラを防ぎ、温湿度管理による種子の活性維持およびヒートショック効果による初期生育促進を実現します。冷却には低温外気を利用するため、少ないエネルギーによる効率的な冷却が可能です。



6. エチレン濃度制御装置

エチレンには頂芽優勢性打破効果があり、エチレン適用により莖数・イモ数が増加するため、種イモ全粒種子生産および種子収量の増大が可能になります。エチレンガスを最適な濃度で供給する BioFresh 社の濃度制御装置をご紹介します。



主催・お問合せ

株式会社 TOMTEN / TOMTEN Trading 有限会社

〒080-0801 帯広市東1条南7丁目2番地1 TEL: 0155-67-5991

<http://www.tomten.co.jp>